

平成 12 年 10 月 15 日

## 2002 ワールドカップサッカー対策協議会だより 第 1 号

対策協議会事務局：菅谷台町内会

### 1．対策協議会発足

平成 12 年 10 月 2 日に行われた、利府町行政区長会議の席上、利府町全区長がメンバーとして参加する、2002 ワールドカップサッカー対策協議会が発足した。発足を受けて、直ちに事務局を菅谷台町内会に設置した。事務局は菅谷台 1-12-8 村松淳司宅（電話 & FAX 022-767-1080 E-mail: mura@iamp.tohoku.ac.jp）である。

### 2．当面の諸問題について

同上の利府町行政区長会議の席上、何が問題か、何を住民の手でできるかがはっきりしない、というご指摘を頂いた。そこで、問題点について、事務局側から整理、説明したい。

#### (1) 多数の外国人の来町

宮城スタジアムで行われる試合は 3 試合のうち、少なくとも 2 試合は、外国のチーム同士の試合であり、5 万人の観衆のうち、少なくとも 3 万人は外国人である。さらに、報道関係者やチケットを持たない外国人観光客を考慮に入れると、少なくとも 5 万人の外国人が利府町を訪れると思われる。また、2 試合はブロックの違うチームの試合であることから、2 試合とも観戦する人は非常に少なく、合わせて 10 万人以上の外国人が来ることは間違いない。彼らの行動は不明だが、宮城スタジアム周辺の散策や、塩釜・松島など、観光を目的に利府町内を訪れるだろう。フランス大会を見ると、スタジアム近辺の町は、町をあげて歓迎し、一緒に楽しむというスタンスであったことから、利府を訪れる外国人もそれを期待しているものと予想される。

こうした外国人が興味をもって利府町を訪れ、住民との交流を希望したときに、行政の対応だけでは不十分であろうと思われる。その理由としては、気軽にやってきて、交流を求められた場合には、行政まで相談し、その回答と指示を待って、ということは時間的に不可能と思われること、また、行政だけでは細かな対応は無理であること、があげられる。さらには、ワールドカップは、利府町民一人一人が利府町を世界にアピールするチャンスと捉えることができる。そのためにも、国際感覚を身につけ、気軽に会話等の情報交換ができるようにしなければならないと考える。しかるに、東京や大阪のような多数の外国人と一緒に住まう町とは違い、また、3 万人という人口で、それを 3 倍以上上回る外国の観光客を迎えるための、確かな知識とマナーは備わっていないのが現状である。利府町民が温かく外国人観光客を迎えれば、それは将来必ず大きな財産となって返ってくることは十分に期待できる。

そのためには、まずは利府町のこと（文化、歴史など）をよく知ることから始めなければならない。利府町内には仙台市に通う人も多く、また他地域から引っ越してきた人が多い。これらの人は、必ずしも利府町のことをよく知らないのではないだろうか。さらには、近隣の市町村のことや、宮城県全体、さらには日本全体についても、外国人に気軽に説明できるようになれば、訪れる外国人観光客も非常に心強いものと思われる。我々が外国に行った時に、そこで親切にされると旅自体が非常に有意義で、後々まで思い出になるように、利府町を訪れる外国人にも同じような満足感を与えたいと思う。

#### (2) フーリガン問題

暴力的なサポーターである、フーリガンの対策は行政を中心に練られているが、行政だけでは対応できない可能性が高い。すなわち、宮城スタジアムだけでワールドカップサッカーが行われるわけではなく、全国各地の会場を使うわけで、宮城県以外の警察の応援は非常に難しいものと考えられる。行政と密接に連絡をとりあって、このフーリガン対策を行う必要があるが、その前に、フーリガンとは何か、またそれを防止する手段とは何か、さらには、発生したときにどういう対処をとればいいのか、上記の、いわば、普通の外国人観光客とどう区別したらいいのかなど、いずれも重要な問題であるにもかかわらず、ほとんどの町民は知らないのが現状である。正しい知識を学び、情報を交換して対策を十分にとることで、精神的にもゆとりを持つことができるのは論を待たない。

### (3) 青少年の非行の問題

国体、ワールドカップと大きな大会が続くが、特にワールドカップでは世界中の国から多くの人々がやってくる。ワールドカップは、4年に一度の国際的なお祭りと思えた方がむしろワールドカップをよくあらわしている。そういう環境に1ヶ月の間、利府町の青少年はさらされるわけで、それらから影響を受けないはずはない。夜間徘徊や飲酒、喫煙等、種々の問題の発生が憂慮される。これもまた、事前に町民自らがワールドカップの本質と現状をよく知り、十分な対策をたてることで、町内会の横のつながりによる非行の未然防止の効果が期待できる。また、他の町内の子供たちだから、ということで、日頃は見逃す傾向になきにもあらず、の状態は、本来は良いとは言えない。

### (4) 交通アクセス問題

キリンカップのときに宮城スタジアム近接の町内では、車が溢れ渋滞を起し、日常生活に甚大な影響を与えた。つまり、町内から出たくても出られないし、出たら渋滞で帰って来られないという状況であった。Jリーグオールスターの際にはかなり改善されたが、それでも多くの車が渋滞を引き起こした。さらに、不法駐車する多数の車があり、ポイ捨てされるゴミと共に、住民に多大な迷惑がかかった。ワールドカップにおいて多数の観客がやってくる点では同様である。1つの町内がバリケードを築いて車を追い出したために、他の町内に迷惑をかける、ということも考えられるため、共同して不法駐車等の問題の解決にあたる必要がある。

以上のほか、ハンディキャップのある人への対処などの知識の取得など、課題は山積みと考えられ、こういう利府町に共通する問題こそ、本協議会で議論し解決すべきと考える。議論することによりまた新たな問題点を発見できるものと期待される。

## 3. 上記の問題に対する解決の方法について

解決策について、事務局から説明する。いずれの問題に対しても、ワールドカップというものに対する知識不足の解消が非常に重要な急務の課題である。ところが、ワールドカップのパンフレットなどを目でも追っても、実際の状況は今一つぴんとこないのが現状である。そこで、勉強会、講演会を開催する必要がある。また、時間をとらない町民対象には、菅谷台町内会で実施したような、ワールドカップパネル展を各町内会で開催していくことも有効であろう。

### (1) 勉強会・講演会

ワールドカップは、日本開催は初めてのことであるので、だれもその運営手法について実務経験があるわけではない。そこで、勉強会、講演会には、フランス大会で観客として体験した人、長野オリンピックで運営の携わった人等と呼び、実際はどうであるのか、問題点とその解決策はどうか、など、正確な知識を習得する必要がある。この勉強会や、講演会の人選や運営方法は宮城県のワールドカップ推進委員会に委ねることが可能である。

## (2) ワールドカップパネル展

ワールドカップパネル展は、菅谷台町内会で実施経験がある。それによると、準備はすべて宮城県のワールドカップ推進局がやってくれるので、実際の作業はパネル展当日、会場の準備に1時間程度かかるだけである。費用も不要であるし、やると決めれば、次の日は無理にしても、1週間程度で準備可能な気軽な催しである。まずは、これから始め、町民のワールドカップ意識の高揚をはかることが必要と思う。菅谷台町内会で実施した、内容としては、フランス大会、キリンカップのポスター、パネル、フランス大会のビデオ等の記録などなど。子どもたちも気軽に楽しめる内容になっている。会場は菅谷台3丁目集会所を利用した。

## 3. 今後の協議会運営について

対策協議会の今後の運営について、協議会会議、ワークグループに焦点をあてて説明する。

対策協議会の性格について確認しておく。本協議会は、町内会同士のワールドカップについての情報交換の場、さらには、上記で述べたような種々の行事の主催団体、宮城県ワールドカップサッカー推進委員会・利府町との協議機関メンバーという位置付けであり、種々の協議会行事において町内会によって参加不参加が出てくるものと予想されるが、不参加の町内会が当該行事について何ら責任を負う必要はないものと考えられる。

まず、協議会会議はメンバーである町内会長出席が必要であるが、多忙の町内会長が一同に会するのは難しいと考えられる。そこで、代理の方が出席することで会議開催の成立をみたい。可能であれば、各町内会でワールドカップ対策専門委員を任命していただき、その方に今後、会議等に出席いただければいいと考えている。また、全町内会が出席しないと成立しないという方法は今後必要な会議が不成立のまま流れてしまう可能性があるため、1/2以上で成立ということにしたい。本協議会は決議機関ではなく、調整機関であるので、これで十分と考えられる。ただし、協議会で議論された内容については、必ず議事録として欠席された町内会にも配布する。

勉強会や講演会など、予算措置が必要な場合は、各町内会へ持ち帰りとして、協議会では何ら決定をしないものとする。予算措置が必要でない行事、あるいは特定の町内会が中心になって行う行事については、協議会が名目上の主催団体となって積極的に、ワールドカップ推進委員会や利府町から協力を頂き、種々の行事を開催する。

ワークグループは、種々の問題を専門的に扱う専門機関であり、興味のある町内会だけが参加する場と考えている。ここでは、たとえば、フーリガン問題であれば、フーリガンについての知識を深めるとともにその対策方法について関係機関と情報交換を行う。ワークグループで得られた情報や結論は、協議会メンバーである、全町内会長に連絡し、各町内会の運営に役立てていただく。

## 4. その他

これらの事務局側の説明について、ご意見、ご質問等があれば、事務局まで直接お願いしたい。また、事務局運営経費等については、当分の間、菅谷台町内会が負担する。ただし、今後講演会や勉強会で予算措置が必要となった場合には、各町内会で承認の上で実行したい。なお、これらの行事は、承認した町内会だけで組織して実行するものとする。さらに、予算措置も承認した町内会だけで行うものとして、他の町内会に負担を求めない。その場合は、当該行事に参加する町内会の中から幹事を任命して、幹事が会計面の役務も担うものとする。

## 5. 当面の動き

本号は第1報ということで、問題点とその解決法について説明した。まずは、パネル展に関心のある町内会を中心に、協議会が主催団体となって、ワールドカップパネル展から実行していきたい。また、ワールドカップ推進委員会と利府町でつくる協議機関には、とりあえず菅谷台町内会から、村松が参加することとする。